

認知症でお悩みのこと

認知症初期集中支援チームが サポートします

認知症初期集中支援チームは、医療と介護の専門職員が認知症サポート医や主治医と連携・協力しながら、認知症の人や、認知症が疑われる人とその家族を支援するチームです。

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、早期診断・対応に向けた支援体制の構築を目的としています。

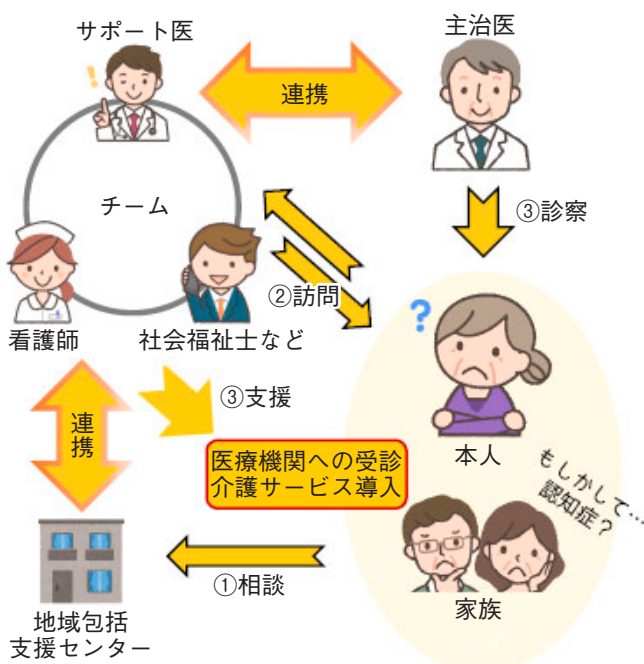
チーム設置場所＝在宅医療介護連携センターきりゅう（桐生メディカルセンター地下1階、元宿町、☎32-5222）

問い合わせ＝健康長寿課長寿支援係（☎内線557）

支援の流れ

- ①対象者または家族などが、地域包括支援センターに相談。
- ②認知症初期集中支援チームの必要性について検討し、必要と判断された場合に、チームが活動を開始。
- ③チーム員が自宅を訪問し、おおむね6か月を目安に、医療機関の受診や介護保険サービスの利用へ結びつけるための支援、家族の介護負担軽減などを支援。

（初期集中支援イメージ）



対象者

以下の1～3を全て満たす人

1. 40歳以上
2. 自宅で生活している
3. 認知症または認知症が疑われる人で、次のいずれかに該当する
 - ・ 認知症の診断を受けていない
 - ・ 継続的な医療サービスを受けていない
 - ・ 適切な介護サービスを受けていない、または中断している
 - ・ 認知症の行動・心理症状が顕著なため、家族などが対応に苦慮している

認知症は誰にでも起こりうる病気です。コロナ禍で自宅で過ごすことが多くなり、高齢者の認知機能の低下が危惧されます。何か心配なことや困っていることがあったら、ひとりで問題を抱え込まず、まずはご相談ください。

